

第15回 ネイチャーキッズ特派員 とうほく南三陸探検隊



ネイチャーキッズ賞作文&体験記録集

プロジェクトについて

公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと株式会社カスミは、2002年より環境活動・環境教育の一環として自然体験エコツアーを実施しています。第15回目の今回も小学校4〜6年生を対象として「大切にしたい自然と生き物」をテーマに作文募集をし、37通のご応募からネイチャーキッズ賞受賞8名を特派員として、とうほく南三陸へ派遣しました。(延べ3,277通の応募作文・144名派遣) 舞台となる南三陸町は、高い山々と広い海に囲まれ、リアス式海岸や分水嶺などの特徴的な地形が有名な町です。

東日本大震災から5年、被災したこの地域では、自然環境の保全と、持続可能な社会づくりを通じた復興をめざし、様々な活動が行われています。「自然の恵みと人の暮らしのつながり」をテーマとして、多様な生物の生きる南三陸の海と、その海によって成り立っている水産業、そして、そこで生活している人々の暮らしについて学びました。

4日間のツアーの中では、シュノーケル観察や漁業体験、また森の探検などを行いました。そこで、学んだこと、感じたことなどを隊員の子どもたちが「手作り壁新聞」にまとめたので、ネイチャーキッズ賞の「作文」とともにご紹介いたします。

第15回 ネイチャーキッズ賞入賞者

 中村 修真 土浦市立東小学校 4年	 渡辺 友仁 日立市立日高小学校 4年	 奥山 陽向 古河市立中央小学校 5年	 竹原 花仲 柴町立安食台小学校 5年
 田中 望 三郷市立早稲田小学校 5年	 寺嶋 優璃 北本市立北小学校 6年	 鳥羽 康佑 稲敷市立あすなろ小学校 6年	 柳澤 明日美 前橋市立山王小学校 6年

ネイチャーキッズ賞作文・探検隊員手作り壁新聞 8面〜10面
作文&体験記録集はカスミのホームページでもご覧いただけます。http://www.kasumi.co.jp/

WWF奨励賞入賞者

- 加藤 寿一 群馬県館林市立美園小学校 4年 「地球の生き物を守るためにぼくができること」
- 中村 絆 千葉県千葉市立千城小学校 4年 「できることを一つずつ」
- 蔵重 心平 茨城県ひたちなか市立中根小学校 4年 「大切にしたい自然と生き物」
- 小林 志羽 埼玉県北本市立中丸小学校 5年 「海の中は温暖化しているの?」
- 志田 樹里 千葉県柏市立田中小学校 5年 「自然と、ずっといつまでも」
- 高島 文香 栃木県益子町立益子西小学校 5年 「美しい地球を守るために」
- 宮崎 明々香 茨城県つくばみらい市立東光台小学校 5年 「つくば山・カタクリ」
- 正田 晴夏 茨城県土浦市立立川小学校 6年 「私の庭のバラとみづは命のつながり」
- 藤田 杏彩 埼玉県ふじみ野市立野西小学校 6年 「ぼくが思う未来への道」
- 後藤 琴実 東京都板橋区立紅梅小学校 6年 「環境保護について考えたこと」

カスミ奨励賞入賞者

- 木森 祐斗 千葉県柏市立豊田小学校 4年 「ぜつめつ動物から学んだこと」
- 雨宮 琉偉 千葉県千葉市立開田小学校 4年 「大切にしたい自然と生き物」
- 塚田 菜美香 茨城県つくばみらい市立開光台小学校 4年 「動物や植物にもやさしく」
- 山崎 大輔 茨城県水戸市立立野小学校 5年 「ぼくと祖父と小さなカブ虫」
- 阿部 慧水 茨城県土浦市立菅台小学校 6年 「魚を守りたい」
- 榎村 紗愛 茨城県牛久市立ひたち野うしく小学校 6年 「いなかの生き物」
- 吉川 莉瑚 千葉県柏市立田中北小学校 6年 「自然と仲良く」
- 斎藤 藍 埼玉県久喜市立立田小学校 6年 「オゾン層と地球」
- 通藤 彩来 埼玉県ふじみ野市立大井小学校 6年 「生き物たちのために」
- 戸田 岬希 埼玉県越谷市立立南越谷小学校 6年 「大切な生き物を守るために」

ネイチャーキッズ 特派員 概要

作文募集 4/1〜5/24

7/2 任命式(説明会)
エコツアー参加への抱負を発表する「任命式」を行いました。



ネイチャーキッズ賞に選ばれた8名が探検隊員に!

ツアー実施 7/26-29 探検隊プログラム

7/26 町を知る 東京駅を出発し、南三陸に到着。南三陸の町を見学しました。	7/27 海を感じる シュノーケル観察会と、カヤックの体験。石ころアートづくり。
7/28 生活を考える ホタテ漁業の体験とトレイルワークの実施。	7/29 森を感じる 森の中を散策して、巨石に登りました。

8/20 報告会
ツアーから戻ると、体験の記録や感想を手作り壁新聞にまとめ、報告会を開いて内容をそれぞれに発表し、体験を振り返りました。

多様な生物の生きる南三陸の海と人々の暮らしについて学んだ3泊4日のエコツアー

南三陸町の海は、寒流(親潮)と暖流(黒潮)がちょうど混ざり合う穏やかな湾で、カキ・ホタテ・ワカメの養殖が盛んな漁場です。山と海も非常に近く、シュノーケリングやカヤックによる海の観察と、地元食材を味わうことで「食」と「自然」のつながりを学びました。

海を感じる 海の中の生き物や植物を観察する



南三陸の海には、南の海と北の海に生える両方の海藻がみられます。前日の夜に海藻カルタで覚えた海藻を、実際の海で見つけたかな?



海の波で角が取れて丸みを帯びた石に、アクリル絵の具でアートを作りました。芸術家になった気分になりましたね。

生活を考える 自然の恵みとそこに暮らす人々の生活を知る



複雑に入り組んだがたちのリアス式海岸は波が穏やかで海産物の養殖に適していることを学びました。船から下りたあとは、とれたてのホタテをバターで焼いて食べました。



3チームにわかれ、地図をもとに歴史を学びながらパズルを完成し、最後は宝物を見つけます。その宝物は、人間が生きていくために必要なものは自然から成り立っている事を教えてくれました。昔から自然と共に暮らして来た入谷地区には、生活に必要なものが自然の中に揃っていて、改めて自然の大切さを実感することが出来ました。

町を知る 震災後の南三陸町を巡り自然の大きさを知る



1960年のチリ地震によって、南三陸まで到達した津波の記憶を残すため、イースター島からモアイがやってきました。

南三陸ポータルセンターには2011年3月に起きた震災の記録が残されています。すぐ近くには当時のままの建物が残されていて、津波の怖さを実感しています。

さんさん商店街は震災以降にできた仮設商店街です。

森を感じる 森と海の深いかかりを知る



入谷地区の石ノ平に残る、花崗岩の巨石を訪れました。古くから信仰の場と伝えられています。

活動中にお世話になった皆さん

こうすけ、しゅーまい、ひなた、とも、ゆんりん、かなか、あんなちゃん、のんちゃん、元気ですか。ピースです。ネイチャーキッズ4日間は、とっても充実した時間でした。みんなはあの4日間覚えてるかなあ。ピースのことも覚えてくれてるかなあ。ピースは、2016年夏の忘れられない思い出になっています。かるたもした。海にも行った。海の中を元気に歩いた。かけこして、すっ転んだ。巨石の割れ目をくぐり抜けた。おいしいもの、いっぱい食べた。村の人とも話したな。みんな、いい思い出です。でもその中でも、みんなと焚き火を囲んで静かに心からの話ができたことが一番強く残ってるな。最高の夏休めだったよ、ありがとう。

ネイチャーキッズ特派員のみなさん、元気に過ごしていますか? この夏、南三陸町での自然を満喫し、日々の生活には変化はありましたが? 今回のツアーでは、シュノーケリングやカヤック等の海の体験を通して、普段とは違った視点から自然を見つめ直したということによって、私たちの毎日の生活は誰かの手によって、いつも支えられている、ということに気づいてもらえたらうれしいです。そして、山と海がおだやかにつながっているように、これからも日々様々な事に挑戦しながら、共感し合える友だちをふやしていってほしいです。また、南三陸町が楽しくなったら遊びにきてくださいな。

海の自然史研究所のみなさん / イールズのみなさん / いりやのみなさん / カメラマン(佐良スタジオ)佐藤様ご一さん



WWF ジャパン 事務局長 筒井 隆司



©1986 Panda Symbol WWF. "WWF" is a WWF Registered Trademark.

私たちが人間が活動することによって、地球の環境に変化が生じ、さまざまな問題が起きています。昨今の地球温暖化や異常気象はその中のひとつで、一人ひとりが環境問題を意識して行動することが求められています。

このネイチャーキッズ特派員の活動は、みんなが環境問題について考える機会を作りたいという思い、WWFジャパンと共に続けて来ましたが、今回15回目を迎える活動の場は、東日本大震災で甚大な被害を受けた北南三陸です。

震災から5年、被災地の南三陸では町の再生、産業の復旧に多くの人が取り組んでいます。子ども達は現地の復興の過程を学ぶ事にしようと思ったんです。また、シュノーケリングやカヤック等の海の観察、ホタテの養殖体験や、そして美浜の探検で、大自然から得た恩恵とそれに繋がる人々の生活を知る事ができたと思います。

とうほく南三陸探検隊に参加したあつたに、特派員の子も達が作成した壁新聞は、子ども達の間で見てきたままの感性豊かな描写まで目についた。大人が気付くことのできない視点から自然を見る事が出来ます。皆様も是非ご一読ください。

発行によせて



株式会社カスミ 代表取締役会長 小濱 裕正

